

リスクと機会、マテリアリティ

日本新薬グループは、当社の持続的な成長を実現するために、社会情勢や市場環境・自社状況などを分析し、リスクと機会を特定しています。今後、マテリアリティ(重要課題)の解決に向けて各部門で定量・定性目標と目標達成に向けた推進計画を策定し、実効性を高めていきます。

		主なリスク	主な機会	対応	マテリアリティ(重要課題)
マテリアリティの特定プロセス 1. 課題の抽出 国際的なガイドラインや基準および社会情勢・市場環境・自社状況の分析により特定されたリスクと機会から、課題を抽出 2. 課題の重要性評価 抽出した課題をステークホルダーにおける影響度・優先度と日本新薬の事業運営における影響度・優先度の2軸でマッピングを実施、重要性を評価 3. 推進計画の立案と実行 各課題に取り組む部門が中心となり、定量・定性目標と目標達成に向けた推進計画を設定。サステナビリティ委員会で定期的に実施状況を検証し、必要に応じて取り組みを改善	経営を取り巻く外部環境認識	- 新たな技術による治療薬・治療法の登場による既存薬の価値低下 - 日本の人口減少に伴う国内中心の事業の縮小 - 自然災害の激甚化・事業リスクの多様化 - 最終消費者の信用低下による事業活動への影響	- 新たな技術を活用した新規治療薬の創出 - 治療から未病・予防への転換による健康関連製品需要の拡大 - ペイシェント・セントリシティの視点に基づくアンメットニーズの発見	- 特長(独自性)のある製品とサービスの創出を通じた人々の健康への貢献 - 安全で高品質な製品の供給の維持 - ペイシェント・セントリシティに基づく患者支援とアドボカシー活動の強化 - DXの推進	イノベーションの創出による健康未来の実現
	- 研究開発の高度化 - 人口動態・世帯動向 - 価値観・ライフスタイル	- 人財流出 - 心理的安全性の欠如によるモチベーションの低下	- 社員の健康維持、人財および働き方の多様化、人財育成による生産性向上とイノベーションの促進 - 働きやすく働きがいのある会社の実現	- 一人ひとりが成長し、活躍できる環境の整備 - ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進 - ウェルビーイングの実現	多様な人財の育成と社員のウェルビーイングの実現
	- 地方創生 - 人権の尊重	- 医療格差への対応の遅れによる事業機会の損失 - 人権問題発生による信頼の損失、事業への影響	- 患者支援や医学・薬学領域の研究支援による医療現場の整備による新たな事業機会の創出 - 人権への配慮、環境改善に伴う社内外における信用の高まり - 子どもの支援を通じたステークホルダーからの信頼獲得	- 医薬品の提供にとどまらないヘルスケア分野への貢献 - 医療アクセスの向上 - 人権の尊重 - 地域・文化への貢献 - 子どもの未来への貢献	社会課題の解決とコミュニティとの共生
	- 気候変動・生物多様性保全 - 資源・エネルギー問題	- 気候変動に伴う異常気象や自然災害 - 廃棄物の増大(不適切な処理)によるレピュテーションリスク、処理コストの増加 - アニマルウェルフェアの配慮を欠いた活動による信用・ブランド価値の低下	気候変動対策によるCO₂排出削減、設備運用コスト低減	- 気候変動対策 - 資源循環の推進 - 生物多様性の保全 - フードロス削減への貢献	地球環境保護への取り組み強化
	グローバル化の潮流				
	- 政治・経済情勢 - デジタル化の進展	- 国際的な法令遵守の強化、インテグリティの意識、コンプライアンス意識の低下による腐敗 - サイバー攻撃や機密情報の漏洩などによる信用・ブランド価値の低下 - 不適切な対応によるステークホルダーからの信頼性低下	- コンプライアンス意識や高い倫理観の醸成による会社に対する信頼性の向上 - ステークホルダーへの適切な情報開示による信頼獲得	- インテグリティの推進 - リスクマネジメントの強化 - 適切な情報開示	ガバナンスの強化

マテリアリティとKPI

2021年4月、日本新薬グループでは社会やステークホルダーに対して果たすべきミッションを見定め、社会課題を解決し価値を創出する上で重要と考える19項目をマテリアリティとして特定しました。

2023年3月には、世界的にサステナビリティの重要性が一層と高まる中、当社の事業を取り巻く環境も大きく変

化していることから、マテリアリティの見直しを実施しました。

今後も社会環境の変化に柔軟に対応していくため、継続的にマテリアリティを見直し、それらへの取り組みを進めることで、持続的な価値の創出を目指します。

計画を大幅に上回る…◎ 進捗100%…○ 進捗70%以上…△ 進捗50%以下…×

マテリアリティ(重要課題)		第七次中期経営計画最終年度(2028年度)に向けた指標・KPI		2023年活動内容・KPI		達成度
 イノベーションの創出による健康未来の実現	特長(独自性)のある製品とサービスの創出を通じた人々の健康への貢献	● 医薬品上市 2品目以上／年 ● 医薬品導入 1品目以上／年 ● スポーツ・エイジングケアサプリメントの新商品上市 10品目／5年 ● 日米に続く他地域でのビルテブソの販売開始		核酸医薬、新規モダリティおよび新規ターゲット・手法を活用した創薬の推進	● 部門横断的な研究体制による創薬を推進 ● 新規モダリティの外部技術の調査・評価を実施	○
	安全で高品質な製品の供給の維持	● 核酸医薬品の安定供給 ● グローバルPV体制の構築		ペイシェント・セントリシティに基づく創薬研究・臨床試験の推進	● ペイシェント・セントリシティに基づく創薬研究、臨床試験実施の課題を検討	○
	ペイシェント・セントリシティに基づく患者支援とアドボカシー活動の強化	● ペイシェント・セントリシティに基づく臨床試験の立案		食を通じた健康増進のため、独自性の高いヘルスケア製品および健康食品素材の提供	● サプリメント上市 7品目 ● 海外への輸送仕様を決定 ● 小田原総合製剤工場にて中国向け製品のシリアライゼーション対応を完了し、自販品の供給を開始	○
	DXの推進	● DX推進人財の育成 全社員の25%以上		デジタル技術の活用等による治療・診断・服薬指導・生活改善の推進	● 医療関係者向けコンテンツ数増加 137コンテンツ ● ヘルスケアアプリ等の開発の方向性を審議する社内体制を構築	◎
				リスクマネジメントによる製品の安定供給体制の強化	● 安定供給チェックリストの改訂、再評価に基づく新たなリスク低減策を策定	○
 多様な人財の育成と社員のウェルビーイングの実現	一人ひとりが成長し、活躍できる環境の整備	● 年間研修時間 一人あたり100時間以上 ● PRIDE 指標 ゴールド認定の取得 ● 女性管理職比率 17%以上 ● エンゲージメントに関する3項目のポジティブ回答率 各々75%以上		成長意欲のある自律型人財やグローバルリーダーの育成	● HONKI塾プログラムによる人財育成 23名 ● グローバルマインドセット研修の受講 198名	○
	ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進			変化に対応できる柔軟かつ強靱な組織の構築	－	－
	ウェルビーイングの実現			年齢、性別、価値観、障がいの有無などを問わず、「個人」を承認する風土の醸成	● 障がい者雇用率 2.5% ● 女性管理職比率 13.4%	○
				心理的安全性が確保された働きやすく働きがいのある職場の実現	● エンゲージメントスコア 70% ● LIFOワークショップ参加者数 193名	○
				一人ひとりに合わせた多様な働き方の促進	● 社外副業 33人 ● 男性育休取得率 70.8%	○
 社会課題の解決とコミュニティとの共生	医薬品の提供にとどまらないヘルスケア分野への貢献	● デファイテリオ、ウプトラビ使用成績調査終了後の論文作成・投稿 ● 研究者への助成数 100人/5年 ● 全社員の人権方針理解率 100% ● きらきら未来ゴー(移動図書館)の貸出冊数 25,000冊/5年		サイエンス分野の発展のため、学術論文や学会などを通じた科学的な知見の発表	● 製品の基礎論文を専門誌へ掲載 ● 貧血の治療実態に関する論文を公表 ● 学会発表を実施	○
	医療アクセスの向上			医療や科学の研究支援のため、公募研究助成制度の充実	● 2024年度の助成対象者 20名	○
	人権の尊重	● 2024年度の助成対象者 20名		難病・希少疾病患者への支援のため、未承認薬提供プログラムの実施および承認国の拡大	● 人道的な支援による未承認薬提供プログラムを実施	○
	地域・文化への貢献	● 人権課題を特定 ● 外部専門家とのガイダンスセッションを実施		事業活動に関連する負の影響を防止・軽減するため、人権デュー・ディリジェンスの実施	● 全社員対象の人権意識調査を実施	○
	子どもの未来への貢献	● バラリンアートを展示 ● SDGsWeek 参加率の進捗率 95% ● 清掃ボランティアを実施 ● 出張野球教室を実施 ● 移動図書館貸出冊数 5,000冊		人権に対する理解促進のため、社内教育・啓発の実施	● 出前授業実施 8校 ● 食育冊子配布 550冊	◎
 地球環境保護への取り組み強化	気候変動対策	● Scope1+2: 7,788t-CO₂以下(2020年度比33.6%削減) ● Scope3カテゴリ1: 146,912t-CO₂以下(2020年度比20%削減) ● 廃プラスチックの再資源化率 65%以上を維持・向上 ● 売上1億円当たりの水使用量の継続的な削減 ● 品質安定保存剤の新商品上市 1品目／年		温室効果ガス削減の推進	● 本社地区再生可能エネルギー切替を実施 ● 温室効果ガス削減 2024年2月時点 1,027t-CO₂削減	○
	資源循環の推進			資源の循環利用の推進(水、廃棄物等)	● 廃プラ再資源化率 88.7% ● 再資源化率 81.5%	○
	生物多様性の保全	● フタバアオイ奉納 200株 ● キクタニギク栽培 6鉢 ● 自生地植え戻し用株 48ポット		山科植物資料館における絶滅危惧種の保護、育成活動の継続	● 継続教育を実施 ● 新規配属者対象の導入教育を実施	○
				アニマルウェルフェアに配慮した取り組みの推進	● 微生物の特徴を評価 約100株	○
	フードロス削減への貢献	● 微生物の特徴を評価 約100株		賞味期限を延長し廃棄を削減するため、食品の味を損なわない品質安定保存剤の開発	● 微生物の特徴を評価 約100株	○
 ガバナンスの強化	インテグリティの推進	● ROIC 9%以上 ● 取締役のIR面談回数の向上 ● 外部評価機関スコア維持・向上 ● コーポレートガバナンスコード 100%遵守		グループ会社も含めたガバナンスの強化	● グループ会社代表とのヒアリング実施 4回 ● グループ会社への直接研修実施 1回	○
	リスクマネジメントの強化	● 全従業員を対象としたコンプライアンス部門研修実施 12回		コンプライアンスの徹底	● 社内イントラネットを通じた啓発活動実施 6回 ● CSR調達アンケートを実施	○
	適切な情報開示	● リスクマネジメント研修受講率 90% ● リスク・コンプライアンス委員会開催 2回 ● 重要リスクの選定を実施		公正かつ透明性の高い事業の推進	● ESG説明会およびR&D説明会を実施	○
				重要リスクの把握と各リスクの管理・対応体制の強化	● 外部評価機関への対応を継続的に実施	○
				投資家へのIR活動の強化	● IRサイト評価機関にて高評価を獲得	○
			ステークホルダーへの情報開示の実施	● IRサイト評価機関にて高評価を獲得	○	